

第6章 流域別の基本方向

「森林の流域管理システム」*を実現するため、森林法に基づく森林計画制度において主要な河川の流域ごとに国有林・民有林共通の全国158の流域（森林計画の単位）が定められ、流域単位の計画に基づき各種事業等が行われています。

本県は、中通り地方のうち東白川郡を除く「阿武隈川流域」、東白川郡の「奥久慈流域」、会津地方の「会津流域」、浜通り地方の「磐城流域」の4流域となっています。

※《森林の流域管理システム》
 森林の各種の機能をもっとも効果的に発揮され、また木材の生産・加工・流通に関する活動も効率的に行われうる範囲である主要な河川の「流域」を単位として、国有林・民有林を通じ、その流域の特質に応じた森林の整備と林業の生産活動を適切に推進する仕組。

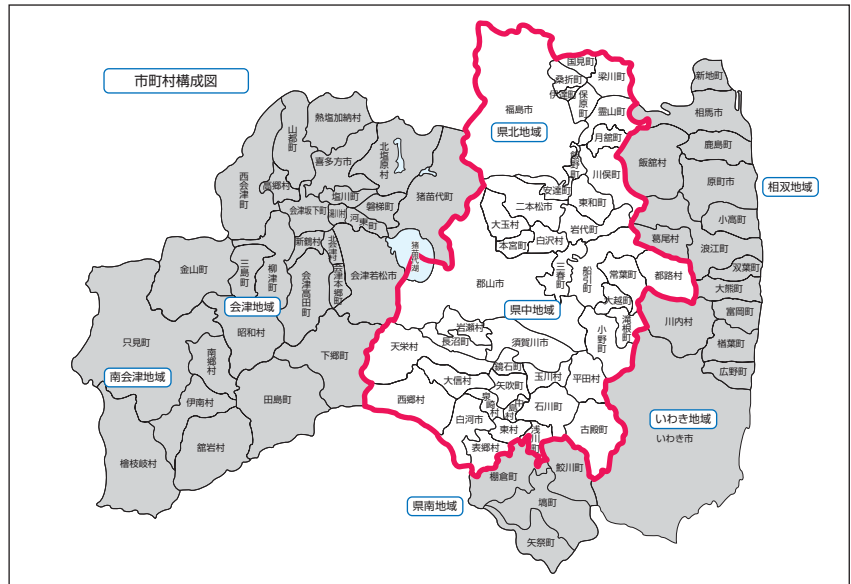
阿武隈川流域

1 流域の特徴

(1) 地理的特徴

当流域は、県の中央部に位置し、福島市ほか42市町村を包括し、総土地面積は47万7千haで県土の34.4%を占めています。西部には奥羽山脈が、東部には阿武隈高地が南北に走りその中央部を阿武隈川が北流し、福島盆地、安積盆地が形成されています。

気候はおおむね太平洋型気候に属し、阿武隈高地は年平均気温が12℃、年降水量が1,100mm程度、積雪は10～24cmです。奥羽山脈は冷温帯気候に属し、年平均気温が10℃程度、年降水量は1,300mmに達し、積雪は30～80cmです。



(2) 森林・林業・木材産業の特徴

○ 当流域の特徴として、第1に流域面積が474,606haと広大であり、流域内の自治体も5市25町13村に及び、林業経営体や関係団体が多くあります。

第2に、森林が奥羽山脈と阿武隈高地に二分されることから、その自然的、社会的条件の相違によって、林業の発展に差が見られます。

第3に、他の流域が素材や製材品の生産供給地としての性格が強いのに対し、当流域は県の中央部に位置し、商工業地として発展している福島市、郡山市、須賀川市を中心とした

木材消費地としての性格が強い地域となっています。

- 当流域は、林業を巡る厳しい経営環境のもとでもなお素材生産量は増加傾向にあるなど、林業生産活動は、活力を保持しています。

しかしながら、森林面積の割合が低いこと、生産基盤である林内路網の密度が低いこと、素材生産の担い手の多くが一人親方等であり零細なこと、緩傾斜地が多いにも関わらず機械化が進んでいないこと、林業労働者の高齢化が進んでいること、流通面では3つの市場が安定的に木材を供給しているものの加工体制の中心となる製材工場が小規模で分散している、という問題があります。

2 施策の方向

(1) 多面的機能の発揮に向けた森林整備

- 市町村、森林組合等と連携し森林整備計画や森林所有者等が作成する森林施業計画策定・実行の支援を行います。
- 森林の有する多面的機能の高度発揮を図るため、重視すべき機能に応じた森林施業を推進します。
- 山地災害の防止と水源かん養機能の回復強化を図るため、特に保安林を中心に森林施業を推進します。
- 森林整備促進のために、森林所有者等と連携し林内路網の充実を図ります。



林道花塚線と人工林（川俣町）

(2) 森林の働きによる安全で豊かな県土の形成

- 阿武隈川流域は県民の56%に当たる約120万人が生活する本県の中核をなす流域であるため、森林の持つ多面的機能の高度発揮が求められる地域です。
阿武隈川をはじめ、その支流は地域住民の重要な水源になっているため、水源かん養保安林を始めとする森林の適正な整備に努めます。
- 人工林で整備の遅れた保安林等を対象に、公的関与による森林整備を推進し森林の持つ多面的機能強化を図ります。

- 当流域の山地災害の特徴は、比較的緩やかな丘陵地帯の山脚部に中小規模の山腹崩壊が多いため、景観や生態系に配慮しながら治山事業等の実施により安全な県土づくりに努めます。
- 県民の憩いの場として利用されている生活環境保全林等において、森林の保全を図りながら就労の場としても活用します。
- 阿武隈高地及び奥羽山脈の中山間地域と里山に広く分布している松林全域で松くい虫の被害が発生しているため、地域ぐるみの防除対策を進めるとともに、他の樹種への転換など総合的に防除対策を進めます。



アカマツからヒノキへの樹種転換モデル林
(大信村)



生活環境保全林 (浅川町)

(3) 県産木材等の安定供給と需要拡大

- 近年、原木流通・大型製材工場・集成材等高次加工施設などの拠点が整備されてきたことから、充実する森林資源と木材の消費地を流域内に持つ地の利を生かし、生産・流通の合理化による、多様な住宅部材をはじめとする各種木製品を安定的に供給する地域材安定供給システムを、森林所有者・森林組合・素材生産者・大工工務店・設計者等関係者と連携を図りながら構築していきます。
- しいたけの安定的生産ができる体制を整備するとともに後継者の育成に努めます。



郡山地区木材製材協同組合の国産材製材施設 (郡山市)

(4) 森林・林業を支える担い手の育成・確保と技術開発

- 山村地域の定住環境改善を図るため、林道の舗装や給排水施設等の生活基盤の整備を進めます。
- 林業労働者が安心して生涯働ける職場環境に改善するため、零細、分散、断片的な素材生産構造を適正で安定的な構造に誘導します。
- 民有林、国有林を含めた事業量の計画的、安定的な確保を図るとともに、機械化等事業の改善合理化を進める積極的な経営活動を促進して事業体の体質強化を推進します。

(5) 県民参加の森林づくりの推進

- 森林づくり地方推進組織の活動等を促進し、都市部住民にも森林に親しむ機会を作るなど森林づくり活動を支援します。

3 森林・林業・木材産業の目標

指 標		現 状 (平成12年)	目 標 (平成22年)	比 率 (%)
森林整備面積(計) (うち間伐)	ha/年	4,093 (1,064)	4,256 (1,305)	104 (123)
水土保全林 (うち間伐)	ha/年	3,173 (868)	3,317 (1,105)	105 (127)
森林と人との共生林	ha/年	26	38	146
資源の循環利用林 (うち間伐)	ha/年	894 (196)	901 (200)	101 (102)
保安林面積(累計)	ha	17,007	18,900	111
林内道路延長(累計)	km	2,800	3,022	108
木材(素材)の供給量 (うち県産木材(素材)の供給量)	千m ³ /年 千m ³ /年	413 (272)	453 (324)	110 (119)
木材(素材)の需要量 (うち県産木材(素材)の需要量)	千m ³ /年 千m ³ /年	310 (168)	342 (202)	110 (120)
地域の特色ある林産物				
しいたけ	t/年	2,009	2,971	148
なめこ	t/年	1,071	1,200	112

2 施策の方向

(1) 多面的機能の発揮に向けた森林整備

- 森林の63%が「資源の循環利用林」である特性を生かし、効率的・安定的に木材資源を活用するとともに、施業の団地化や高性能林業機械を活用した効率的な森林整備を推進します。
- 標準的な伐採林齢に達している人工林の面積割合が県平均を10%上回る22%を占めていることから、森林の持つ多面的機能の維持と安定的な素材の供給を図るため、複層林への誘導や長期循環林の整備を促進します。
- 育成途上にある人工林は、間伐をはじめとする適正な森林施業の実施に努め、健全な森林の育成を促進します。
- 林道と公道等とが有機的・一体的となった高密路網等の整備をはじめ、今後も森林整備促進のため、森林所有者等と連携し林内路網の充実を図ります。



充実した人工林資源（矢祭町）

(2) 森林の働きによる安全で豊かな県土の形成

- 本流域の森林は久慈川の最上流部に位置し、本県のみならず下流の茨城県の水源としても重要な役割を果たしています。また、棚倉破砕帯等の地質の脆弱な地域もあることから、水源かん養機能の強化や災害防備のために保安林の適正配置に努めます。
- 山地災害危険地区の整備を推進し、景観や生態系に配慮しながら治山事業等により安全な県土づくりに努めるとともに、生活に身近な森林として生活環境保全林の活用を図ります。
- 松林は他の流域に比べて少なく、松くい虫被害量は少ないが、県立自然公園等景観を形成するうえで重要な松林やまつたけ林が多いため、これらの保全を重点とした被害対策を実施します。

(3) 県産木材等の安定供給と需要拡大

- 国有林との連携を強化し、良質材の安定的供給と流域内での加工度を高めるための体制整備を図ります。
- 産地間競争に打ち勝つために、JASに基づく製品の販売体制確立を支援します。
- 木材乾燥、プレカット、モルダー加工等の施設整備を図り、品質、性能の明確な製品供給体制づくりに努めるとともに、製品流通拠点施設の設置を検討するなど奥久慈材の産地化・銘柄化を図ります。
- 奥久慈材の需要拡大を図るため、「奥久慈の木でつくる家^{*}」を関係機関との連携を図りながら推進します。
- しいたけの安定的生産ができる体制を整備するとともに後継者の育成に努めます。
- 木炭は土壌改良、水質浄化等様々な効用を生かした需要拡大を図り、産地化を推進します。

* 《奥久慈の木でつくる家》

奥久慈流域の豊富な木材を使った住宅であり、奥久慈流域林業活性化センターが中心となって、「奥久慈木の家」木造建築物工事標準仕様書を作成した。



奥久慈木材流通センター（埴町）

(4) 森林・林業を支える担い手の育成・確保と技術開発

- 林業事業体の体質強化とともに基幹的な労働者について就労の長期化・安定化を促進します。
- 雇用の改善及び新規就業者の確保を図るため、月給制の採用や社会保険及び労働保険への加入を促進します。
- 作業現場の巡回指導等を実施し、労働災害の発生防止に努めます。
- 山村地域の定住環境を整備するため、計画的に林道の舗装や給排水施設等の生活基盤の整備を行います。

Column 《奥久慈材》

当地域は人工林スギ材産地という特性を持ち、昭和25年頃から35年頃にかけて積極的に造林された。昭和45年頃からは枝打ち等の優良材生産の技術が導入されている。一般構造材の産地化を図り、産地ブランドを確立する方向で奥久慈材供給基地としての条件整備を進めてきている。



高性能林業機械による伐木造材（鉸川村）

(5) 県民参加の森林づくりの推進

- 森林づくり地方推進組織の活動等を促進し、地域の特徴を生かした森林づくり活動を支援します。

3 森林・林業・木材産業の目標

指 標		現 状 (平成12年)	目 標 (平成22年)	比 率 (%)
森林整備面積(計) (うち間伐)	ha/年	632 (361)	673 (387)	106 (107)
水土保全林 (うち間伐)	ha/年	449 (283)	485 (327)	108 (116)
森林と人との共生林	ha/年	7	9	129
資源の循環利用林 (うち間伐)	ha/年	176 (78)	179 (60)	102 (77)
保安林面積(累計)	ha	1,828	2,000	109
林内道路延長(累計)	km	502	544	108
木材(素材)の供給量 (うち県産木材(素材)の供給量)	千m ³ /年 千m ³ /年	200 (129)	220 (154)	110 (119)
木材(素材)の需要量 (うち県産木材(素材)の需要量)	千m ³ /年 千m ³ /年	148 (78)	163 (94)	110 (121)
地域の特徴ある林産物				
しいたけ	t/年	233	349	150
木炭	t/年	254	370	146

会津流域

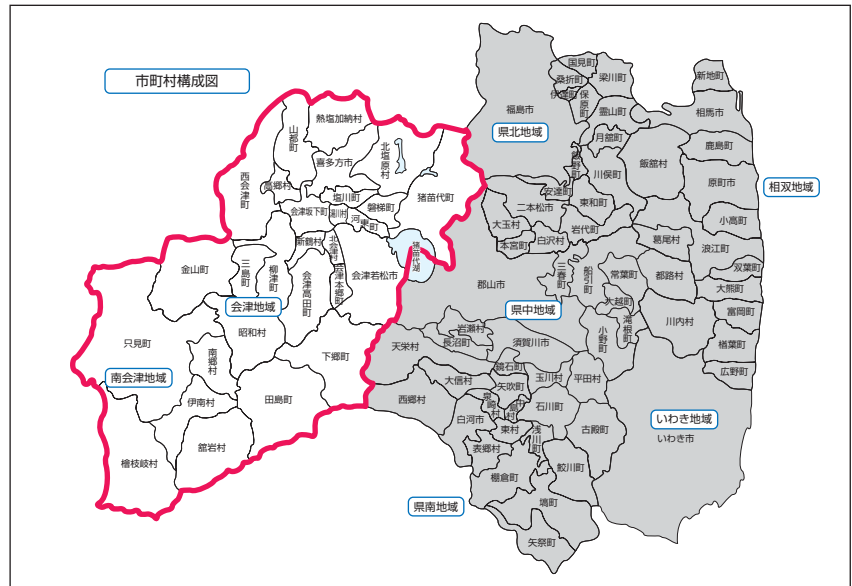
1 流域の特徴

(1) 地理的特徴

当流域は、県の西部に位置し、会津若松市ほか27市町村からなり、その総土地面積は54万2千haと県土の39%を占めています。周囲を奥羽山脈等の山々に囲まれ、会津盆地を阿賀川が流れ只見川と合流し、阿賀野川となって新潟県で日本海に注いでいます。また、猪苗代湖、

檜原湖などの湖沼群があり、磐梯朝日、日光国立公園、越後三山只見国定公園を有し、本県における観光の中心的な地域です。

気候は日本海型気候に属し、冬期間の積雪は多く、少ない地方で50cm程度で、特に只見地域は2.5m以上となる豪雪地帯です。年平均気温は10.8℃、年降水量は会津盆地で1,300～1,400mm、山間部で1,400～1,900mm、只見地域では2,400mmとなっています。



(2) 森林・林業・木材産業の特徴

- 奥羽山脈を背景とする地域、阿賀川流域と越後山脈を源泉とする只見川流域、会津盆地と呼ばれる平坦地の3地域に区分され、自然的社会的条件によって林業生産活動に差異があります。
- 国有林の割合が他流域に比べて高く、また、水源かん養をはじめとする保安林が多く存在します。
- 他の流域に比較してカラマツ資源が豊富であり、飯豊スギや本名スギなどの天然スギが自生しています。
- 地形が急峻で豪雪地帯であることなどから人工林率は低い一方で、豊富な広葉樹資源を背景に家具用材やパルプ材の生産、加工が盛んな地域として発展してきました。近年は、優良資源の減少などから加工用広葉樹材の供給不足という問題が生じています。
- 製材工場は、地場消費型工場が多く、小規模分散的です。
- 会津地域独特の特産林産物である桐やうるしの栽培も、外国産の多い中で特筆すべきものです。特に桐については全国一の生産量を誇り、その品質についても高い評価を得ています。

2 施策の方向

(1) 多面的機能の発揮に向けた森林整備

- 会津地方の豊かな自然を維持し、地域住民の生活と関わりの深い里山林の森林整備を推進します。
- 森林面積の約85%を占める水土保全林については長伐期施業への転換や広葉樹林の整備等、多様な森林施業を推進します。また、人工林については除伐・間伐等を適切に実施し健全な森林の育成に努めます。
- 間伐の推進については事業の効率化及び生産コストの低減を図るため、施業の集団化、計画化を推進するとともに、選木・伐採・集積及び搬出技術の向上に努めます。



林道舟子線と間伐（会津若松市）



水土保全林（熱塩加納村）

- 森林整備が市町村森林整備計画に則し計画的に進められるよう、森林所有者等を支援します。
- 広大で原始的な森林が多いことから、生態系に配慮しつつ機能区分に応じたきめ細かな森林整備を促進するため、市町村、森林所有者等と連携し林内路網の充実を図ります。
また、広域的ネットワークのための基幹道路である大規模林業圏開発林道の整備を推進します。

(2) 森林の働きによる安全で豊かな県土の形成

- 当流域の森林は、下流住民の水源をかん養するほか日本有数の水力発電施設を有し、また、県内でも最も地形の急峻な地域にあります。このため、今後も水源かん養機能や山地災害防止機能の強化のために保安林の適正配置を図るとともに、整備の遅れた森林を対象に、公的関与による森林整備を推進し森林の持つ多面的機能の強化を図ります。
- 森林面積の約75%を広葉樹林が占めており、森林の多面的機能発揮の核を成していることから、様々な利用を図りつつ質的充実を目指します。

- 特に流域内21市町村において各河川の上流域に位置する国有林、民有林を一体とした区域に約10万haの規模で設定した「水源の森林」*について、関係機関連携のもと、治山事業の優先的、重点的導入と、公的機関の積極的関わりによる森林整備を推進します。
- 急峻な山岳地帯と冬季の厳しい気象条件等もあり、当流域には約1,900箇所もの山地災害危険地区が存在します。その規模も他流域に比べ大きいものが多いことから治山事業を積極的に推進し県土の保全や県民の安全を確保します。特に日本を代表するリゾート地域もあることから、景観や生態系に配慮した質の高い対策に努めます。
- 県民の憩いの場として利用されている「昭和の森」、翁島県有林、生活環境保全林等について、森林の保全を図りながら積極的な活用を進めます。
- 松くい虫の被害は、南会津を除く地域で発生していますが、被害が拡大しているため、保安林等保全すべき松林を守るため計画的に防除を進めます。
また、カシノナガキクイムシ*をはじめとするその他の病虫獣害についても防除を進めます。

*《水源の森林》
水源のかん養や山地災害防止機能の維持増進を図るため、河川上流部の森林に国有林・民有林を一体とした「水源の森林」を設定し、集中して森林整備を行う構想。会津流域林業活性化センターが中心となって平成13年度に構想を立て、平成14年度に地区設定を行っている。

*《カシノナガキクイムシ》
本州以南に分布している体長5mm程度の養菌性キクイムシ（菌を養殖して食料とするキクイムシ）。ナラ菌を媒介しその菌がナラ類の集団枯損を引き起こす。
日本海側各地に被害が発生しているが、本県では平成12年度に西会津町で初めて被害が確認された。

(3) 県産木材等の安定供給と需要拡大

- 素材生産業者の事業を安定的に確保するため、国有林との連携強化を図るとともに、制度資金の活用を促進します。
- 森林組合連合会会津共販所における流域内生産木材の取扱いの拡大や、原木流通の合理化を図る「流通情報システム」開発を推進するとともに、木材加工、製品販売センター、住宅展示施設などが集中的に立地する木材流通拠点の整備について検討します。
- スギ・中目材*、カラマツ材、広葉樹材の利用・加工技術の開発に取り組みます。また、流域内生産木材の高度利用と生産コストの削減に向け、高次加工用機械施設の導入を図ります。
- 木材の需要拡大のため、福島県産材利用会津地方連絡会議及び南会津地域木材利用推進会議を設置するとともに、供給体制の整備を図ります。
- 山菜、野生きのこ等森林資源の有効利用と増殖技術の確立を進めるとともに、きのこ類生産者の組織化と栽培施設の近代化を図ります。
- 桐栽培技術の普及と良質材の生産に取り組みます。
- うるし需給安定のための組織化を推進するとともに、うるし林の整備と掻き子の養成を図ります。



木を表現した村営住宅（館岩村）

*《中目材》
梢側の直径が14cm以上30cm未満の丸太を言う。中丸太、中目丸太ともいう。この丸太からは主に板材が生産されるが、近年需要が減少しており、柱材に比べて㎡当たりの単価が安い。

(4) 森林・林業を支える担い手の育成・確保と技術開発

- 労働条件の改善を促進し、新規就業者の増加を図るため、林業従事者、新規就業者に対し支援するとともに、新たな就業機会の増大に努めます。
- 指導林家・青年林業士の活動強化及び林研グループ活動の充実を図ります。
- 研修施設の整備と労働力の多能工化*を図るための研修を強化します。また、各種研修会等に参加する者への支援強化を図ります。
- 山村地域の定住環境改善を図るため、林道の舗装や給排水施設等の生活基盤の整備を進めます。



会津桐栽培研修（三島町）

*《多能工化》

多種の機械設備の操作や多種の作業、担当範囲外の作業も出来るように、常に作業訓練を図ることをいう。

(5) 県民参加の森林づくりの推進

- 森林づくり地方推進組織の活動等を促進するとともに、ボランティア団体等、NPOやもりの案内人と連携し、森林整備ボランティア活動を支援します。

3 森林・林業・木材産業の目標

指 標		現 状 (平成12年)	目 標 (平成22年)	比 率 (%)
森林整備面積(計) (うち間伐)	ha/年	4,564 (1,360)	4,748 (1,621)	104 119
水土保全林 (うち間伐)	ha/年	3,599 (1,156)	3,792 (1,408)	105 122
森林と人との共生林	ha/年	48	62	129
資源の循環利用林 (うち間伐)	ha/年	917 (204)	894 (213)	97 104
保安林面積(累計)	ha	70,540	71,900	102
林内道路延長(累計)	km	2,384	2,636	111
木材(素材)の供給量 (うち県産木材(素材)の供給量)	千m ³ /年 千m ³ /年	161 (140)	177 (167)	110 119
木材(素材)の需要量 (うち県産木材(素材)の需要量)	千m ³ /年 千m ³ /年	127 (106)	140 (127)	110 120
地域の特色ある林産物				
しいたけ	t/年	468	740	158
なめこ	t/年	393	760	194
桐	m ³ /年	1,100	1,200	109
生うるし	t/年	38	80	211

磐城流域

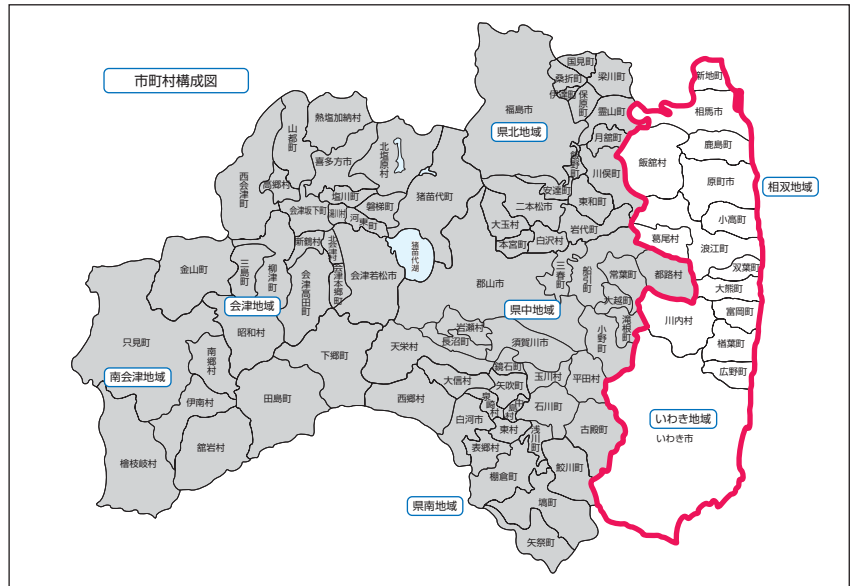
1 流域の特徴

(1) 地理的特徴

当流域は、県の東部に位置し、太平洋と阿武隈高地に挟まれた浜通りと呼ばれる地域で、相馬市、原町市、いわき市の3市と相馬郡、双葉郡の12町村を包括しその総土地面積は29万7千haと県土の21.5%を占めています。北は宮城県、南は茨城県に接し、西は阿武隈高地が南

北に連なっています。主な河川は、宇多川、真野川、新田川、請戸川、高瀬川、木戸川、夏井川、鮫川で阿武隈高地に源を発し、その延長は短く河床勾配は上流部で急峻、下流部では緩やかです。

また、当流域は太平洋に面しているため、海洋性の温暖な気候に恵まれ、年平均気温は山間部で10℃、平野部で13℃となっています。年間降水量は、1,300～1,500mm、最深積雪量は、平地ではほとんどなく山間部においては9～31cmと県内では少ない地域です。



(2) 森林・林業・木材産業の特徴

- いわき市は、古くから林業が盛んで人工林化が進み、森林面積の57%を人工林が占めています。なかでも阿武隈高地に位置する田人、遠野、三和地区は気候・土壌条件がスギの適地になっているため、その生産地として有名です。

また、相双地域の森林は、阿武隈高地の高原地区や山麓から海岸平野にかけてはアカマツを主体とした林相となっており、中腹部から平野部にかけて比較的肥沃な沢筋はスギの造林地が分布しています。これらの人工林の面積は森林面積の54%を占めています。

- 相双地域は、温暖な気候と豊富な地下水を活用して優良な造林用苗木を生産しており、県内造林用苗木の約3割を供給しています。
- 流域の林業生産活動は、森林資源の成熟化が進み、造林組合*などによる生産体制が整っているにもかかわらず、必ずしも活発ではありません。
- 製材用原木は、素材生産者によって生産され、流域内にあ

*《造林組合》

森林所有者が共同で、団地的なまとまりを持った森林について自主的に森林施業計画をたて、市町村長の認定を受けて計画的に森林を整備している団体。

いわき市内では、従来から「団共」として活発に森林整備を行ってきたが、平成14年度の森林施業計画制度見直しに伴い「属人」、「団地共同」の区分も無くなったため、現在はこのように呼んでいる。

る4つの原木市場で取り引きされますが、その年間取扱量は、流域内生産木材の50%となっています。

- 小名浜港、相馬港の木材貿易港を背景とした大型外材工場は木材需要の減少等により厳しい経営を強いられており、国産材製材工場は少量多品目生産工場と近代化が進んだ大規模工場とにわかれます。
- 特用林産は、阿武隈山系の豊かな広葉樹資源を背景にしいたけ・なめこの産地化と増産に努めています。

2 施策の方向

(1) 多面的機能の発揮に向けた森林整備

- 森林所有者が立てる森林施業計画にもとづく森林整備を支援するとともに、県営林、公有林等について地域の模範的森林として適切な管理に努め、併せて地域の雇用対策に寄与していきます。
- 人工林のほとんどは育成途上にあり、間伐をはじめとする適正な森林施業の実施に努め、健全な森林の育成を促進します。
- 阿武隈高地の森林の多くを占めるアカマツ林は、松くい虫被害の進入を未然に防止するとともに、適切な施業を行い、良好な森林環境への維持増進を図ります。
- 森林の機能区分（水土保持・共生林・循環林）と流域の特性に合った森林施業体系を構築するとともに、林道・作業道を有機的に組み合わせた林内路網の充実を図ります。
- 森林の持つ多面的機能の維持と素材の安定的な供給を図るため、育成複層林等長期循環林型森林整備を促進します。



四時ダムと周辺の森林（いわき市）



適正な森林施業のされた田人町の森林（いわき市）

(2) 森林の働きによる安全で豊かな県土の形成

- 当流域の河川は集水面積が小さく、水資源の確保が困難なためダム、ため池が多く造成されており、また、沿岸部では海風等の影響を受けることから、水源かん養保安林や潮害防備保安林等を適正に配備します。
- 当流域はアカマツとスギを主体とする人工林率の高い地域ですが、整備の遅れた保安林等を中心に、公的機関による森林整備を推進し、森林の多面的機能の維持増進を図ります。
- 高速交通網の整備や電源立地に伴う開発も多いことから、林地開発許可制度の適切な運用を図り、林地の適正な利用の確保に努めます。
- 当流域は双葉断層やマサ土地帯、いわき地区の第三紀層地すべり地帯など、地質的要因から災害を受けやすい地域です。そのため山地災害危険地区を中心に、景観や生態系に配慮した治山事業を積極的に実施し、安全な県土づくりに努めます。
- 地域固有の景観を形成している海岸保安林や都市住民の憩いの場である生活環境保全林については、ユニバーサルデザインへの対応等見直しとリフレッシュを行い、保健休養機能の向上を図ります。
- 松林は広範囲に分布し、松くい虫被害も慢性的に発生しています。そのため、マツをその他の樹種にかえる樹種転換を積極的に推進するほか、背後地の農作物を塩害から守る海岸部の松林など、保全すべき松林は徹底した防除を実施します。
- 他の流域に比較して林野火災が多発している地域であることから、防火帯を整備し、入林者に対する防火意識の啓発や巡回指導など、一層の予防強化に努めます。



海岸林の保全（小高町）

(3) 県産木材等の安定供給と需要拡大

- 木材市場の機能を強化するとともに、素材生産業者の生産体制の整備等を支援し、民有林材と国有林材一体となった木材流通の安定化に努めます。
- 製材業者等の体質強化のために協業化を推進し、乾燥施設・高次加工施設の整備及び製品販売施設を設置するなど、消費者ニーズに対応できる流通加工体制を整備します。
- 国、市町村並びに磐城流域林業活性化センター等の関係団体との連携により、地産地消を推進し、県産木材の利用を図ります。
- しいたけ、エリンギ等の生産量の拡大を目指すとともに共同出荷・販売体制の強化に努めます。
- 製材工場等から排出される端材・おが屑を木質バイオマスとして有効利用することに努めます。



いわきプレカット協同組合の加工施設
(いわき市)

(4) 森林・林業を支える担い手の育成・確保と技術開発

- 施業の多様化にともない林業作業士*の養成と各種研修を行い、技術の向上に努めます。
- 労働安全衛生の向上を図るとともに、労災保険をはじめとする社会保険や労働保険の加入を促進します。
- 労働の軽減や生産コスト低減を図るため、高性能林業機械を導入し就労条件の改善及び事業体の経営合理化に努めます。
- 山村地域の定住環境と地域交通の改善による地域産業の振興を図るため、集落間をつなぐ林道開設や改良・舗装を推進し、給排水施設等の生活基盤の整備に努めます。
- 先進的な活動をしている人や優れた技術を有する人材を活用して、地域住民の森林・林業・木材産業への理解を深めることに努めます。
- 学校教育の総合的学習活動と連携を図り、森林・林業教育を推進します。

*《林業作業士》

伐木造材、集材運材など特殊技能を要する作業のための各種資格・免許・技術を持つ林業労働者のこと。また、その資格を指す。

(5) 県民参加の森林づくりの推進

- 森林づくり地方推進組織の活動等を促進し、地域の特徴を生かした森林づくり運動を推進します。
- 漁業従事者との交流を図り、「森・川・海」の循環の理念の定着を推進します。



植林ボランティア（浪江町）

3 森林・林業・木材産業の目標

指 標		現 状 (平成12年)	目 標 (平成22年)	比 率 (%)
森林整備面積(計) (うち間伐)	ha/年	3,511 (915)	3,723 (1,087)	106 119
水土保全林 (うち間伐)	ha/年	2,579 (733)	2,756 (900)	107 123
森林と人との共生林	ha/年	29	41	141
資源の循環利用林 (うち間伐)	ha/年	903 (182)	926 (187)	103 103
保安林面積(累計)	ha	15,390	16,300	106
林内道路延長(累計)	km	2,181	2,265	104
木材(素材)の供給量 (うち県産木材(素材)の供給量)	千m ³ /年 千m ³ /年	755 (223)	829 (266)	110 119
木材(素材)の需要量 (うち県産木材(素材)の需要量)	千m ³ /年 千m ³ /年	746 (230)	823 (277)	110 120
地域の特色ある林産物				
しいたけ	t/年	646	860	133
なめこ	t/年	350	344	98
エリンギ	t/年	148	180	122